

Singapore Business Topics

高砂香料、シンガポールの製造・研究開発設備を拡張

高砂香料工業の全額出資子会社、タカサゴ・インターナショナル(シンガポール)は、アジア地域事業拡大の一環として、約25億円(4,040万SGD)を投資しシンガポールにおける製造・研究開発設備を拡充すると発表しました。これにより、同施設の規模を現在の2倍に拡張し、香料や食品フレーバーの研究員も35%増員します。



高砂はシンガポールを、アジア向け香料やフレーバーの試作、応用など研究開発から製造まで行う地域内の主要事業拠点とする計画を進めています。現地法人のアルフレド・アスンシオン・ジュニア(Alfredo Asuncion Jr.)社長は、「シンガポールが、アジア市場向け新製品開発の主要事業拠点となり、また地域内の消費者行動をさらに理解するための重要拠点となるよう推進していきます」と述べています。

高砂は、消費者に対する洞察(コンシューマーインサイト)への取り組みも強化しており、消費パターンに関する研究を進めています。アスンシオン社長は、消費者の心を捉えるフレーバーや香料はまだ開発途上であるとし、このためコンシューマーインサイトが重要であるとみています。今回の投資により、創作、技術開発などイノベーションをさらに加速し、将来の製品に応用できるすぐれたフレーバーや香料の成分の研究に力を入れていきます。

*記事中の通貨換算レートは、1シンガポールドル(SGD)=63 日本円(2011年9月13日現在)で算出しています

南洋工科大学とEDB、共同でアジアの消費者動向に関する調査機関を設立

南洋工科大学(NTU)とEDBは、共同でアジアの消費者洞察を研究する機関「アジア・コンシューマーインサイト協会(Institute on Asian Consumer Insight, ACI)」を立ち上げました。

アジア地域の所得額が増大するなか、アジア全域の消費者ニーズや嗜好などをいち早く理解する必要性が高まっています。ACIは、こうした理解を深める活動とあわせて、研究や研修プログラムを実施し、企業が地域内消費者のニーズや要望にあったブランドや製品を開発し、サービスを提供できるよう支援していきます。

今後NTUとEDBは連携して、5年間でおおよそ49億円(7,700万SGD)を投資し、研究員を20人まで増員する計画です。NTUのバーティル・アンダーソン(Bertil Anderson)学長は「シンガポールはアジアの消費者動向の研究における一大拠点となるでしょう。その多文化な環境と、アジアの中心に位置する地理的条件は、アジアの消費者ニーズや独自の嗜好および文化がいかに購買決定に影響を与えるかなどを理解するのに最適です」と述べています。

NTUは既存の経営学部、人文学部、工学部に加え、新たに

ロンドンのインペリアル・カレッジと共同で医学部を立ち上げる予定のもと、学際的な研究環境を整備しています。ACIはNTUとの連携を通じて、アジアで事業拡大を目指す企業が必要とするマーケティング、製品イノベーション、設計などの包括的な知識の蓄積を支援します。また、他の大学やアジア内のNTU研究パートナーと連携を促進します。こうして、B2C企業の参画を伴いながら、アジア内の消費者行動に関する将来的な施策や、研究手法の確立のための能力を開発していきます。

EDBのペー・スワンジン(Beh Swan Gin)次官は「シンガポールはACIを通して、多様性に富んだアジア市場における共通点および相違点を企業が把握するための支援を行います。EDBは引き続き、コンシューマーインサイトに関する研究体制を拡充し、研究機関、ブランド企業、市場調査会社、広告代理店や小売店などの各種ステークホルダーの連携を促進するプラットフォームを支えて、エコシステムの育成に努めます」と述べています。

*記事中の通貨換算レートは、1シンガポールドル(SGD)=63 日本円(2011年9月13日現在)で算出しています